

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 3 NUMBER 2 2024



巻頭言 種まき

第55回全国大会 須長 正治 (九州大学大学院 芸術工学研究院)
実行委員長

日本色彩学会の55回目の全国大会を、福岡市にある九州大学大橋キャンパスにて開催いたします。九州での全国大会は、3度目で、九州大学大橋キャンパスでの開催は2回目になります。九州大学での最初の開催は、ちょうど10年前の2014年でした。ひと昔前です。10年前は、さほど、危機感はなかったのですが、今、思うことは“若手がない”、全くいないというわけではないのですが、それにしても、少ない。今、流行りのAIなどの研究分野では、多いのかも知れませんが、日本色彩学会の若手は少ないのではないかと思います。それでも、国際色彩学会(AIC)などに行くと、日本の色彩研究者は、多くの方が参加し、そして、多くの方が発表していると感じることができます。他の国と比較して、色彩の研究者は多い方かもしれません。しかし、第一線で活躍していた先生方が徐々にリタイアしていっていますし、これもいつまで続くのだろうかと感じてしまいます。

日本は、少子化と言われて久しく、しかも、人口減少に入りました。どこもかしこも後継者不足、どの学会もそうなる運命で、後継者の争奪戦が始まろうとしているかも？すでに、始まっていると思った方がいいでしょう。やれやれです。

さて、どうしましょうか。指を咥えていても事態は改善しないし、駄目元でもいいので、今回の全国大会では、新しい企画を行うことにしました。高校生に学会への参加を呼びかけてみました。電子メールで約100校、FAXで約150校、あとは、口コミで、広報を行いました。ねらいは、高校生に色彩学研究を知ってもらおうということです。色彩は古代ギリシャのアリストテレスの時代から研究対象でしたが、大学受験の際には、なかなか見えません。例えば、建築を勉強したければ、建築学科、経済を勉強したければ、経済学部などと、このような大きな学問としては扱われていません。色彩を勉強したければ、どこ？となるのではな

いでしょうか？その前に、色彩が研究対象になることも知らないかも知れません。今、思い返せば、自分も高校生の頃は色彩が研究の対象になるとは思っていませんでした。

今回の全国大会は、高校生を意識した全国大会となっています。まずは、高校生のための色彩学のチュートリアルとして、3講演があります。ひとつは、色彩学入門で、色彩が研究対象になること、そして、もう2講演は、社会の中で色彩学がどのように役に立っているのかです。具体的には、実際に企業で行っている仕事を紹介します。株式会社資生堂のみらい研究所の菊地久美子さんには、化粧品での色彩研究を、元株式会社竹中工務店の高畑雅一さんには、建築設計コンペやプレゼンテーション、アート作品制作などの業務での色彩の話をしていただくことになっています。

また、大学では、色彩学科のような学科はないので、実際にどこに行けば、どのような色彩研究ができるのかを知ってもらうために、大学研究室紹介であるオープンラボも開催します。オープンカラーラボは、オープンキャンパスの色彩学会版です。

さて、今回、高校生の発表も募集しました。嬉しいことに3件の発表の申し込みがありました。聴講については、何人くらいの高校生が参加してくれるかは分かりません。不安ですが、楽しみでもあります。色彩に興味を持ってくれる高校生は必ずいると思います。現在、須長の研究室には、3名の学部4年生がいますが、3名のうち2名は、高校生の頃から、色彩の研究がしたくて、九州大学芸術工学部に入学してきたと言っていました。このような高校生が少しでも増えることを願うばかりです。本大会がそのような機会になることを期待しております。そのためには、まず、学会参加者の皆様に、この全国大会を楽しんでいただき、その雰囲気に参加する高校生に伝わればと思っています。